

校長室より

「天空高き」



第138号



令和2年10月1日

Revolution～大革命～ 12回楽学祭を終えて

コロナ禍の中、第12回楽学祭が開催されました。今回は3密を避けるために、一部オンライン等を活用して実施にこぎつけました。

初日の開会式等では3年生は最後の楽学祭になるので、体育館で参観することができましたが、1、2年生については別室にてのリモートでの参加となりました。

また、保護者等の参観も中止になりましたので、後日、動画配信で見てもらいました。

すべてが新しい試みで実施するので、どんな楽学祭になるのか、大きな不安を抱えていましたが、生徒会の役員、文化クラブ員、有志、そして教職員の皆さんの協力で盛況のうちに終わることが出来ました。

アメリカの、ジョン・F・ケネディは、第35代大統領就任スピーチの中で、「国があなたのために何をしてくれるのかを問うのではなく、あなたが国のために何を成すことができるのかを問うて欲しい」という一説を述べています。

このようなコロナ状況下の中でも、私たちに何ができるかをまず考えることが大事です。どんな環境、状況下においても大切なことは、「その環境が何をしてくれるか」ではなく、「その環境に対して自分に何ができるか」を考え、実行することです。それが皆さんの未来を切り拓くことにつながります。

世の中は、思い通りにいかない事が多いですし、予想外の事も起きます。周りで起きた事をどう受け止めるのかは、自分次第です。過去に起きた事は変えることは出来ませんが、その変えられない過去を受け止め、どのように次に活かしていくのか考えて行動していくことで、自分の未来を変えることができます。

来年の楽学祭の更なる飛躍を期待しています。



壁紙アートー校長賞と教頭賞ー

各クラスの作品を拝見しました。

各クラスがみんなで話し合い、どんなテーマを設定してどのように仕上げたのか、それぞれのクラスの個性が垣間みることができ、とても楽しく鑑賞させてもらいました。しかし、いざ選考となると大いに悩みました。

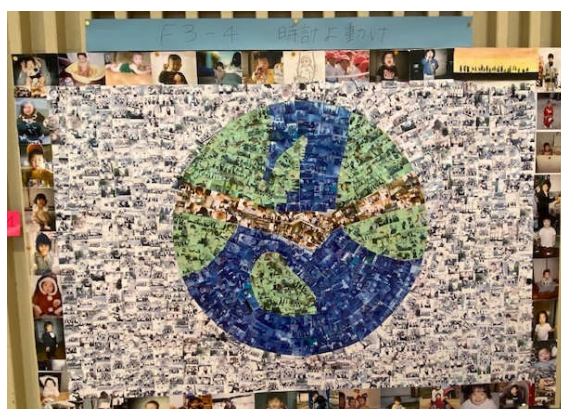
選考基準は、次の3点です。

- ①クラスのメッセージが明確に見える者に伝わってくるか。
- ②手間暇をかけて丁寧に仕上げているか。
- ③どれだけインパクトがあるか。

選考結果は、次の2作品になりました。

校長賞がS2-1「アマビエ」
教頭賞がF3-4「時計よ動け」

どの作品も甲乙つけがたく、最後は、校長と教頭の独断で決めました。



ところで、コロナ禍の中で、今、私たちはどうにか普段の生活を取り戻すことができました。しかし、いつどこでどのようなことが起こるか、全く先を見通すことが困難な時代になっています。私たちが普段の生活を送れていることの方が、地球全体を見通して考えれば、少ないのかもしれませんが。あらためて、この当たり前の生活が当たり前に送れていることに感謝し、今を、前向きに、お互いをリスペクトしながら、学校生活を充実させていきたいものです。

人間の尊厳ーやさしいことをふかく その2ー

ある雑誌の一部（改）を紹介します。

『「大小便をすること、服を着ること、ご飯を食べること、疲れたら眠ること」などは、当たり前のことだと思っている。しかし、病になったり、年をとったりして、当たり前のことができなくなって、はじめて当たり前と思っていたことの尊さが身に染みるのではなかろうか。……』

(中略)

・・・実に「大小便をする、服を着る、ご飯を食べる、疲れたら眠る」という、これらは、決して人工智能に代わってもらえないことなのだ。自分で大小便を出さなければ意味はない。服を着るのは、この自分自身の身体であり、ご飯も機械に代わって食べてもらうわけにはいかぬ。眠ることもこの自分自身が眠らないと生きてゆくことはできない。

どんなに人工智能が発達しようとも、決して代わってはもらえない。人間の人間たる尊厳というのは、ここにあるのではないかと思う。・・・・・・・・

「人間の尊厳」とは「一人の人間の存在を尊いものとして尊重すること」。

「人間の尊厳を尊重する」とは、その人が人として生き、存在していることをかけがえのない価値として大切にすることを表しています。

いくら科学が発達しても、決して代わってもらえない、人間の尊厳が、人種を理由に尊厳なく扱われることに抗議するデモが、世界中で起こっています。介護の世界でも学校での「いじめ問題」でも、同様に人間の尊厳が守られていません。また、このコロナ禍の中、誰もが感染する可能性があるコロナに感染しただけで、誹謗中傷を受けています。

人と自分を区別して自分だけを守るのではなく、皆誰もが同じだと寄り添い、お互いに認め合いながら生きていくことが大切なのではないでしょうか。

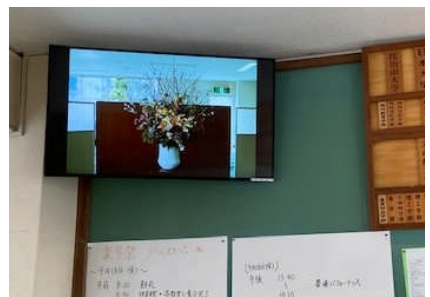
電子掲示板の設置ー令和元年度卒業生記念品ー

9月から事務室前と第2校舎玄関ホールに電子掲示板が設置されました。令和元年度卒業生からの記念品です。

現在は、楽学祭の様子が配信されていますが、学校行事、クラブ活動の活躍、そして皆さんへの伝達事項（お知らせ）等が画像で見ることができるようになりました。

この電子掲示板に多くの情報が配信されることが、卒業生への恩返しになります。皆さんの活躍を期待します。

むずかしいことをむずかしい
やさしいことをやさしく
おもいごとをまじめに
まじめなことをゆかに
そつてゆかに
あぐまゆかに



Empathy～他人の靴を履いてみる～

10月の月間目標

本を読む

令和2年度
チャレンジ目標

- 1 5分前考動
- 2 整理整頓
- 3 先に元気な挨拶
- 4 1%を誰かのために

いつの間にか季節は秋の色が日に日に濃くなってきました。

新型コロナウイルス感染拡大のために、就職試験の開始が1カ月延期になり、今月の16日からになりました。また、総合型選抜試験や学校推薦型試験も1カ月前後遅くなりましたので、3年生の皆さんにとってはこれからが受験本番となります。ゆっくり読書する時間もゆとりもないと思いますが、愛読書を手元に置いておくだけで、心が落ち着くかもしれません。一冊の本が皆さんにとって時に友となり、時に師となります。

一冊の本との出会いが、皆さんの人生を豊かなものにしてくれます。ちょっと時間があれば図書館や本屋さんに足を運んでください。

二十四節気

寒露（かんろ）10月8日

寒露は晩秋から初冬にかけて草木や木の葉の上につく露のことで、「露が冷気によって凍りそうになる頃」という意味です。

寒露の頃は残暑も終わり、日中は過ごしやすい陽気ですが、朝晩は肌寒く感じられるようになり、寒さが少しずつ増していきます。

秋の移動性高気圧に覆われて晴れた夜は放射冷却により地面付近の気温が下がり、まだ湿り気のある空気中の水蒸気が露となります。早朝に草木に触れると濡れるのは、このためです。

霜降（そうこう）10月23日

霜降とは、字のとおり霜が降りる頃という意味で、今までより寒さが加わり、露が凍って霜に変わり始めるようになります。

移動性高気圧に覆われた時など風がなくおだやかに晴れた朝は、野原一面に霜が降りるようになります。霜降の頃になると、東北地方や本州の高山では紅葉が見頃となり、紅葉前線が本州を南下するとともに各地で寒さも増していきます。

「お天気.com」